

環境制御技術の実際を知って生産力向上・・・環境制御技術現地研修・・・



6月8日、農業改良普及課は、四万十町にある農業担い手育成センターの環境制御技術を実践している施設で、研修を行いました。生産者21名を含む41名が参加し、キュウリ、ナス、ピーマンにおける環境制御技術の実際を観察して、試験内容の説明に熱心に耳を傾けていました。参加者からは、「太くてしっかりした茎。今の時期に樹が疲れていないのはいい。」等と関心を寄せる意見が多く聞かれました。また、関連機器の導入を検討している生産者は熱心に炭酸ガス発生装置や局所施用ダクトを観察しており、新しい技術の導入意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、生産力を向上させる技術の普及を目指し、今後も同様の研修や講演会等を行っていきます。

早生水稻の収量・品質の向上・・・穂肥時期以降の栽培管理・・・



6月2日、JA高知はた中村支所管内3地区で、穂肥時期以降の栽培管理について講習会を開催し延べ28名が参加しました。

農業改良普及課からは、穂肥適期と施用量の判断方法や、いもち病耐性菌対策を中心に病虫害防除について指導を行いました。また、併せて飼料用米の栽培管理・収穫方法について、主食用米との違いの周知徹底を図りました。

参加者からは、「すぐに幼穂長を確認する」「いもち病の防除では同じ薬剤を使用しないようにする」等の声が聞かれ、重要な管理作業について理解が深まりました。

農業改良普及課は、今後飼料用米の収量向上について指導していきます。

子ども達に農業を知ってもらいたい！・・・宿毛4Hクラブ出前授業・・・



6月15日、宿毛4Hクラブが松田川小学校で、5年生7名を対象に出前授業を行いました。クラブ員から『お米ができるまで』、『食の大切さ』の授業をした後、コシヒカリとヒノヒカリの食べ比べをしました。また、授業後はクラブ員が提供した野菜や果樹、豚肉を使ってカレー作りも行いました。

クラブ員からは「子ども達に農業のことを知ってもらえて嬉しい。授業をするために改めて自分も勉強し直す機会になり、自分のためにもなった。今後もこのような活動を続けていきたい。」等の声がありました。

農業改良普及課は、食農教育に力を入れる宿毛4Hクラブの活動を今後も支援していきます。

県内流通を目指して・・・農家レストランしゃえんじり・・・



6月2日、6次産業化推進事業を活用し、商品開発や加工品の販売に取り組む農家レストランしゃえんじりの6次産業化支援チーム会を開催しました。チーム会では、推進事業の説明後、『まめにみそ』について、販売先、生産量、包装、ラベル、原価等について情報共有を行いました。

アドバイザーからは包材やラベル、ロゴを含めて検討をしたらどうかという提案があり、メンバー内で協議後、今後の取り組む方向を決定することとなりました。

農業改良普及課では、今後もアドバイザーと連携し、組織の活性化や商品開発、販売拡大に向けて支援を行います。

集落営農法人の活動強化！・・・幡多地域集落営農法人連絡協議会の開催・・・



6月15日、四万十市あぐりっこ研修センターで、法人役員や関係機関職員合わせて34名の出席のもと、幡多地域集落営農法人連絡協議会を開催しました。

県農業会議等関係機関からは、登記事項の変更手続や各種事業活用について、農業改良普及課からは、経営分析の考え方、法人間連携や担い手対策、園芸作物等の生産拡大、法人の運営管理等幅広い情報提供を行いました。参加者からは、法務局への各種手続や事業活用等、多くの質問が出されました。

協議会を開催したことで、意見交換と制度の周知徹底が行われ、法人運営への意欲を高めることが出来ました。

農業改良普及課は協議会を年3回程度開催し、法人の活動強化に向けた支援を継続して行います。

複合経営拠点にかかる農業部門の法人設立・・・第1回法人設立チーム会・・・



6月15日、三原村農業構造改善センターで、第1回法人設立チーム会が開催され、農業者4名、関係機関・団体7名が参加しました。

農業改良普及課からは、「法人設立の手引き」を全員に配布して事業計画作成に当たっての整理事項や設立までの流れを説明し、今後のスケジュールを確認しました。

参加者からは、構成員や出資金、役員体制等について多くの質問があり、法人制度の概略を理解してもらうことが出来ました。

農業改良普及課は、法人の12月設立を目標に設立準備委員会を定期的で開催していきます。

キュウリ栽培を振り返り増収にむけて意見交換・・・大方地区きゅうり反省会の開催・・・



6月14日、大方園芸部キュウリ部会は30名が参加して黒潮町改善センターで反省会を開催し、抑制と促成作型での1年間の取り組みを振り返り、販売結果等を検討しました。

農業改良普及課からは、品種比較や炭酸ガス施用試験結果、アザミウマ対策、佐賀県での環境制御技術の取り組みについて情報提供を行い、生産者は、天敵導入や環境制御について活発に意見交換を行いました。県内外視察の意向、白黒マルチ利用に意向が示され、栽培管理改善について意欲が高まりました。

農業改良普及課は、キュウリ増収に向けて炭酸ガス施用や品種選択、栽培管理等について、地域にあった技術を確立・普及していきます。

高品質の新生姜の出荷に向けて・・・目慣らし会を開催・・・



6月6日、JA中村支所生姜部会が中村選果場で、新生姜出荷目慣らし会を開催しました。会には生産者17名が参加し、JAからは出荷における規格や栽培上の注意点を、園芸連からは他産地の動向などが説明されました。

農業改良普及課からは、6月以降の病害虫対策や、新技術として注目されているファインバブルについて情報提供しました。生産者からは、ファインバブルの導入状況や効果・コストなどについて質疑がなされ、収量・品質向上への意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、今後も新生姜の高品質・増収化に向けた支援を行っていきます。

ぶしゅかんの産地形成へ・・・地域アクションプランの実現に向けて・・・



5月27日、四万十市役所会議室で、ぶしゅかん生産者組合設立総会を行い、生産者17名、関係機関等13名が参加しました。

農業改良普及課は、幼木の管理が生産量の多少に大きく影響することや早期樹冠拡大のため病虫害防除の励行が重要になることを指導しました。

生産者から、生産量目標について質問があり、参加者全員で当面の目標を共有し、その達成に向けてまずは早期樹冠拡大に取り組むことを確認しました。

今後農業改良普及課は、既存園の早期樹冠拡大と新植用接ぎ木苗の生産指導を行います。